



Handwritten text on the book cover includes:

- Top left: *St. James's*
- Center: **共古目録** (Kōkoku Mokuroku)
- Below center: **十巻** (Ten Volumes)
- Right side: **町三丁目** (Chō San-chōme) and **平安寺** (Hei'an-ji)
- Bottom right: *Shimizu*
- Bottom center: *Shimizu*
- Bottom left: *Shimizu*

Red circular postmarks are visible, including one with the number 8.

特別
45
1413
9



ほーたるこい柳の下で水のまよふ
うらちの水の甘いな
瑞穂をとりて

コーモリ
とこぼれをとりて

君のまをとりて
あかきほ
ヤシマ
あかきほ

根が先へ出らば種あかきほ

雁の飛来もぬき

かゝりて
なれくのまに

鳥のねむら

かゝりて
かゝりて

夕やけ空の色に見て

夕やけにやけりたまに

暮の空に

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

青梅を食す

梅を食す

雪路のぬ、切也
雪コシくよおびたい氷
舞々環せとらして

ふらう角がせ鎖ちせ横箱だーやれ
かけうせ押して

お前の茶碗どの位かまのこくもの位
芥かくして 多倍が芥のわくせりもあつてあつて

おいらのの食へ火がつらうだ
痘瘡の者せかうのいて
ギヤンコ 火事 どうだ

あうれんをさそふ芽をぶらけて
お前のまかりしなまおーしん
ゆるぬぬ根のぬい球つらき
ゆるぬぬ根のぬい球つらき
善の溜身おのら

遠のつり如善此寺鐘年

善此寺鐘
年

寺元文政元歲次丙辰九月吉祥日



知年のひちかき一説あり寛政年向橋河火坂つては五右衛門と
つて者の傳は此太亭とつて者あり其者半れつて火説を録
ひゆるを野土仲向とせんを東一とせんを津とせん
とせんをえせせしむるを菊川所に伝へる傳の士
和野の人ありて此火坂助とせんを東一とせんを津とせん
たり其者力ありて家守とせんを東一とせんを津とせん
事伴をせん其者ありて公平に裁断し火坂河を強をゆたり
此河を東一とせんを東一とせんを津とせん
愛し道に事とせんを東一とせんを津とせん
るおとせん火坂の出世ありて此河の女をせん
此河とせんを東一とせんを東一とせんを津とせん
元信おとせんを東一とせんを東一とせんを津とせん

強をゆたり者とせんを東一とせんを津とせん
此河を東一とせんを東一とせんを津とせん
此河を東一とせんを東一とせんを津とせん
此河を東一とせんを東一とせんを津とせん

青板のついで

無本料理

無本料理
松谷油
煮込み
引つり
あらはしけり

大根から
おろし
油
すり
入

梅の皮
すり
入

北畠佛大茶
金銘

武州
南無阿彌陀佛
奉寄の鐘子
為二親の菩提
于時買交八年
霜月廿五日當九百日
武州豐高郡葛西庄
大嶋村念佛堂常住物
少弥津住地至山城國
鑄物師屋屋八右衛門

河越新日吉山王鐘之銘

總寫

武藏國河肥庄

奉鑄新日吉山王
大檀那長三尺五寸

大檀那平朝臣經重
大進阿闍梨圓慶

文應元年庚申十一月廿二日

鑄師舟治久支
大正真重

新日吉山
鐘銘

古鑄而印載
如人物略傳

言の東の
人物志平の歳

二日坊の古鑄而印平に載り人物中の一二
今龍の姓高橋名敬雄祥鳳二名道長号無
新華堂美濃の僧著書多し如等

永田座秋學此語於二日坊
東田龍溪三角名碑西四年丁未三月十日設

高田兼名釋字子君東号陽谷小字忠藏此
本姓高踏橋高

上柳の州名美熟字公道
字治蓮菜荒木四郎主蓮菜執形名尚初取樂從

字治蓮菜荒木四郎主蓮菜執形名尚初取樂從
東田の三女初力日收栗杖高とあり

神奈川

古銭 名敬三

右并原左あり

戸塚

古銭

三浦徳号あり

沼津

古銭 於勢流錦洲

中喜三あり

鳴田

古銭 柳語号鳳皇

村九あり

掛川

古銭 書面号信風舎

井服部新あり

掛川系川

古銭 名品号桃亭三十九

三浦藤十あり

見取

古銭 其名号

名兼邦字之号

以三八久古銭成りてに載しあり
物諸大流と大流号詢山標とあり
栗杖号とあり

前同才不載
昔原不載
人物

了る同書に所ある昔原也一人物として載せし
有原 同考和勢 美駿河と勝志 名竹道三三致

杉東満
植樹家画 名應今之伯輝
植杉 東満

乱年 号環号吉留
渡也 三平
渡也 高平

吉原 将基
洋場理
桔梗心材茂

岩淵 号蓋号好生号似
号換龍
木下俊右衛門
大村 與十郎

以下略

此籍の綴り
大正

書籍の綴りの名称

粘冊 葉子

大原袋 照

此の書は

河内山内川言事 鈴川の如き珠の
正の珠に二重

文之 刻し 永年向信 必の如き珠
の如く 七年代 珠の如く 明應 年代のもの
おの 珠以下 珠の如く 明應 年代のもの

山本勘助

甲斐の山本勘助の事 信守 信松の事 七代 山本

勘助の事 信守の事 信松の事

山本勘助(三郎) 打久 山本勘助 甲斐守

家子 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

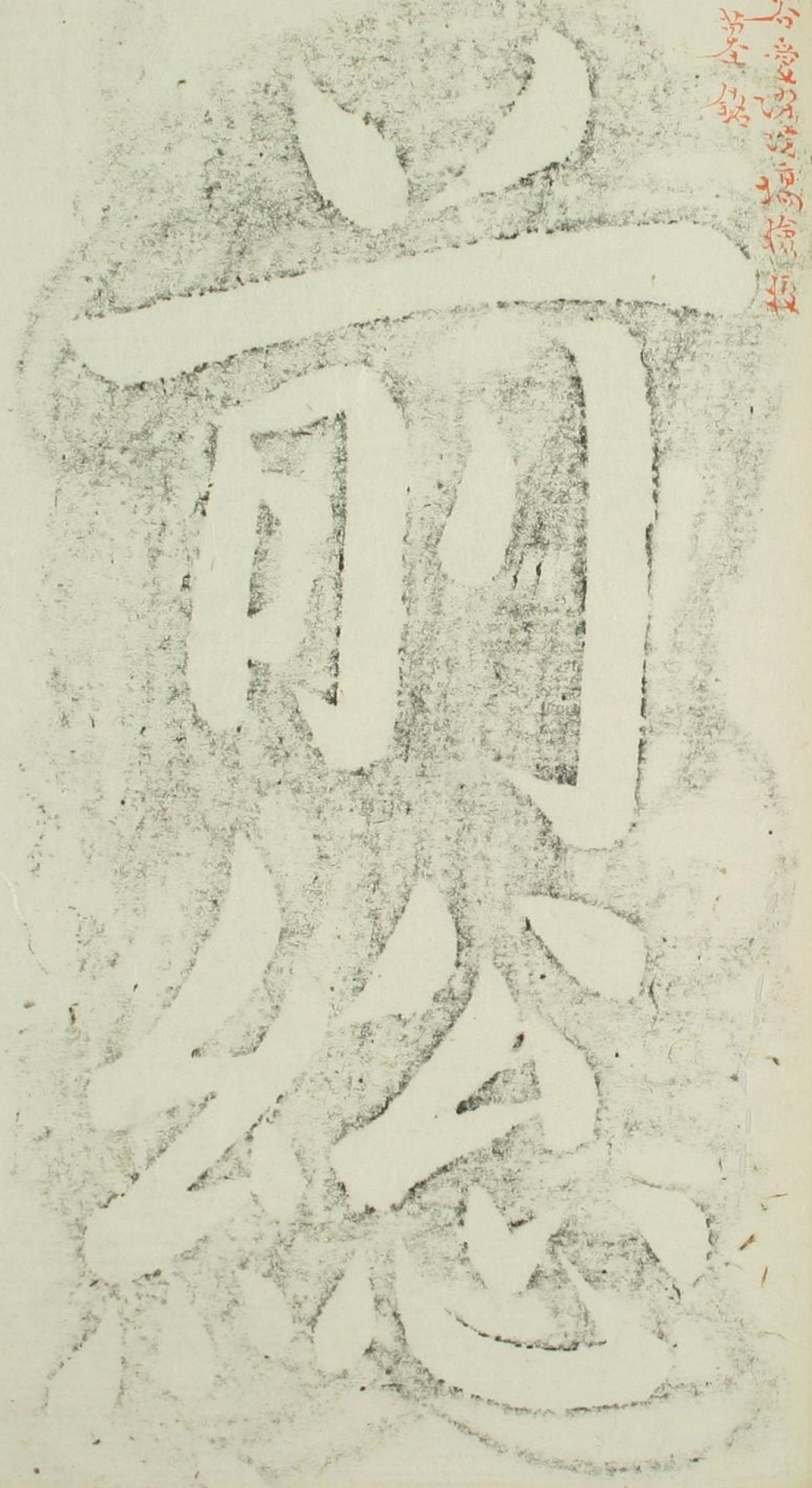
甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

甲斐守 吉良 山本勘助 打久 山本勘助 甲斐守

山本勘助の事 信守 信松の事 七代 山本

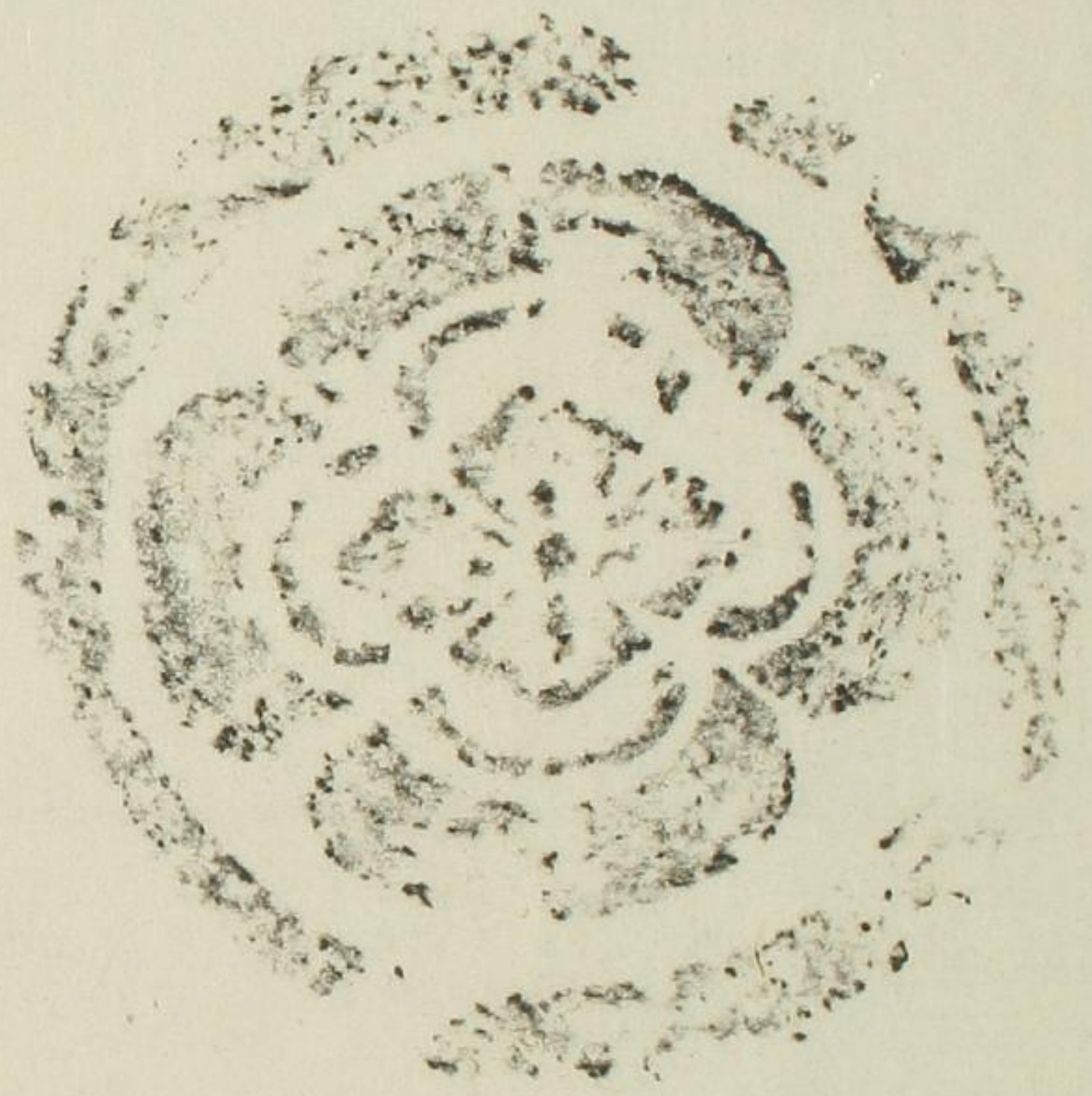


世間無常

人生如夢

世
日
本

世
日
本



六紋の墓前花五二
形制の異なる紋あり

四谷靈徳院塙檢校の墓

川喜の墓
張の帖
古銀

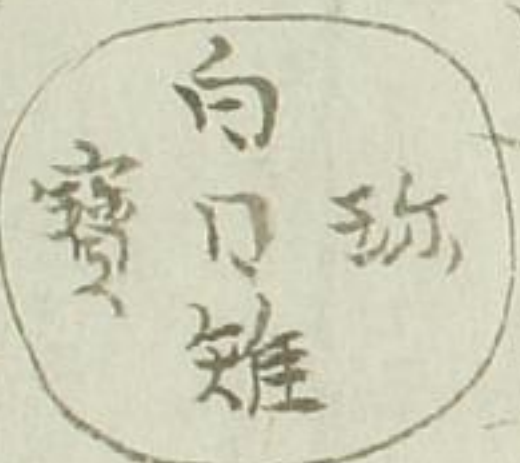
伊勢丹波の分家あり其の墓の張の帖ありに種々の古銀あり

照姫守錢



相州藤澤山中
小栗堂長生院
以此一錢亦七種也

崇寧の當り錢あり七種のあり



西大寺 西塔
廢址龍池院中監

東大寺大佛殿
什古銀

古銀あり其の周りに同様の紋あり

安南德隆七年

三三三三

前見成... 安南國德隆七年... 實永... 安南國...

書籍... 安南國... 實永... 安南國... 實永... 安南國...

加藤直種没年月

先父文行堂没年

歲三没年甲子月

各町書由の生

新編三の教

加藤直種... 文行堂... 妙法寺... 明治甲子年七月廿五日

新編三の教... 各町書由... 妙法寺... 明治甲子年七月廿五日

尾枝の古物

鐵雪藏尾枝の古物也 尾枝發見の記あり

尾枝已亥歲出玉右河内南陽縣葛原之古彌里城
傳聞之人見地墳起掘之獨骨片與泥相粘結成塊然
後團浸水中或數日或月餘始漸漸然後置諸盆盪
以水盪洗之約而三月之久乃畢同時所出者有牛脛
骨頗堅緻尾枝一種也昔者稱望之色而者取用力
即碎不易易物也

尾枝の古物

又同書の解題中
尾枝可識者千支而已如甲申三三三(此識別の四十三葉片)乙酉
三川而寅三三三丁卯三三三戊午三三三己亥三三三庚戌三三三
TO 11 癸未三三三惟己字不見其有十三葉葉の片也乃時年
己是否未詳定也

尾枝發見の
年月

尾枝の發見年月ハ光緒廿五年己亥年卯月廿六
年己亥年 鐵雪藏の古物也 光緒廿九年癸卯九月
又此古物を殷代のものとして三十年以前

鐵古物列の古物

新出たる古物
あり古物月

鐵古物列の古物

鐵古物列の古物

鐵古物列の古物 明應中古物(三三三)三條詩列して
何物かの三三三の古物也 此の古物は鐵ありし古物也
あり玉の卯月之の古物也 此の古物は鐵ありし古物也

圖 查 長 命

鐵古物に當る長命の古物也 此の古物は鐵ありし古物也 鐵古物に當る長命の古物也 此の古物は鐵ありし古物也

撰馬陸類

撰馬陸類

撰馬陸類

撰馬陸類

撰馬陸類

撰馬陸類 知名抄に用る名苑 及有茅也引れ
而是の文之あるは 撰馬陸類 知名抄 未
いてアマヒコの方は 撰馬陸類 知名抄

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

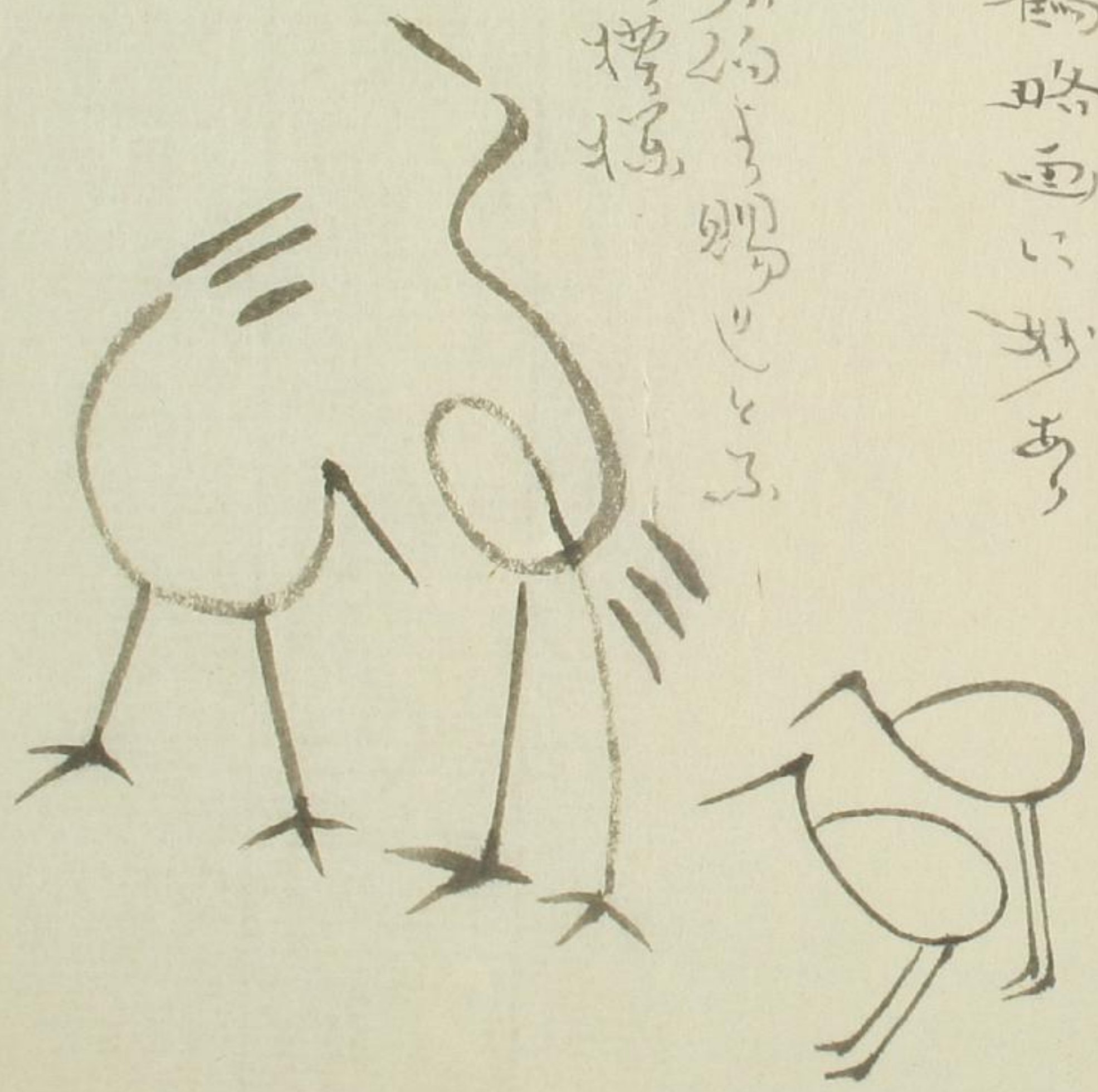
撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

撰馬陸類 知名抄 未
撰馬陸類 知名抄 未

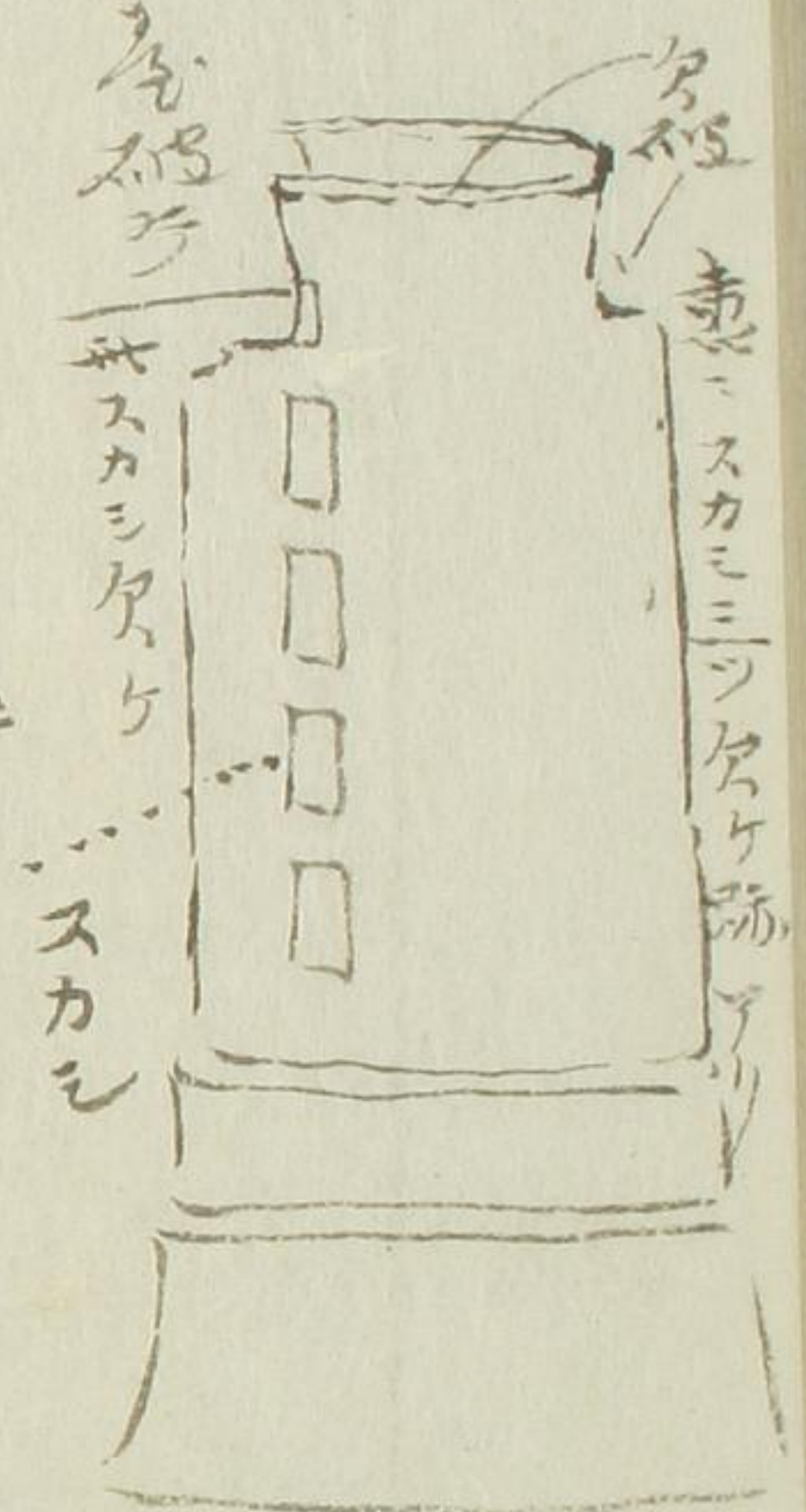
銅鑿の古式
銅鑿の古式
銅鑿の古式

銅鑿の古式
銅鑿の古式
銅鑿の古式

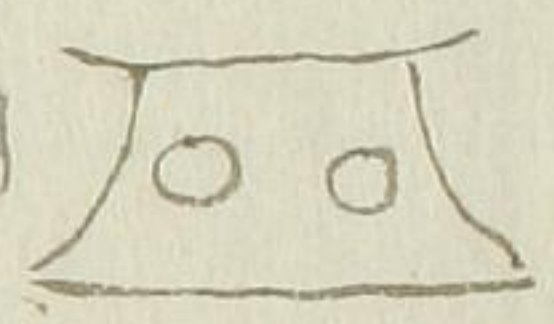


銅鑿模様の鶴略画に妙あり
銅鑿模様の鶴略画に妙あり
銅鑿模様の鶴略画に妙あり

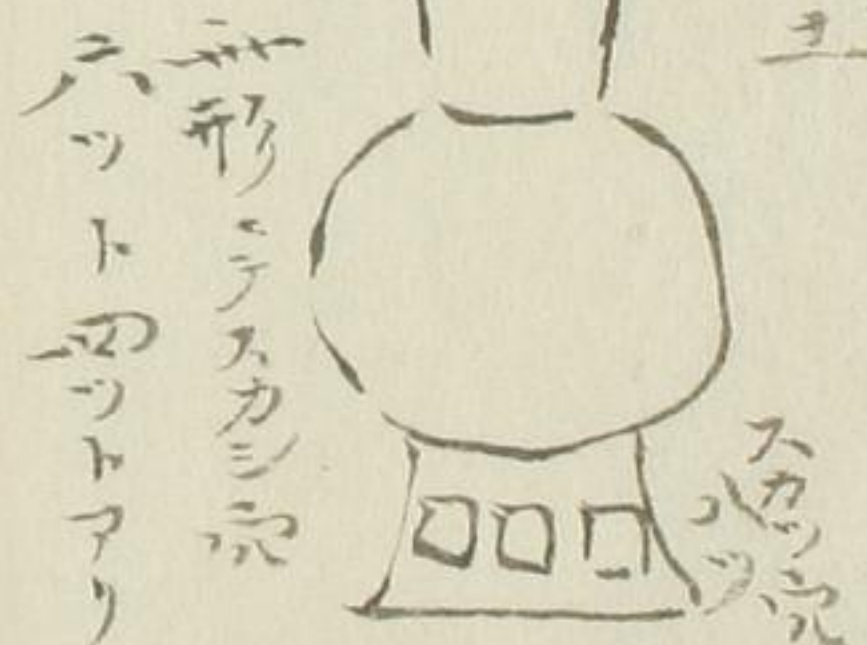
肥前
肥前
肥前



陶器
陶器
陶器

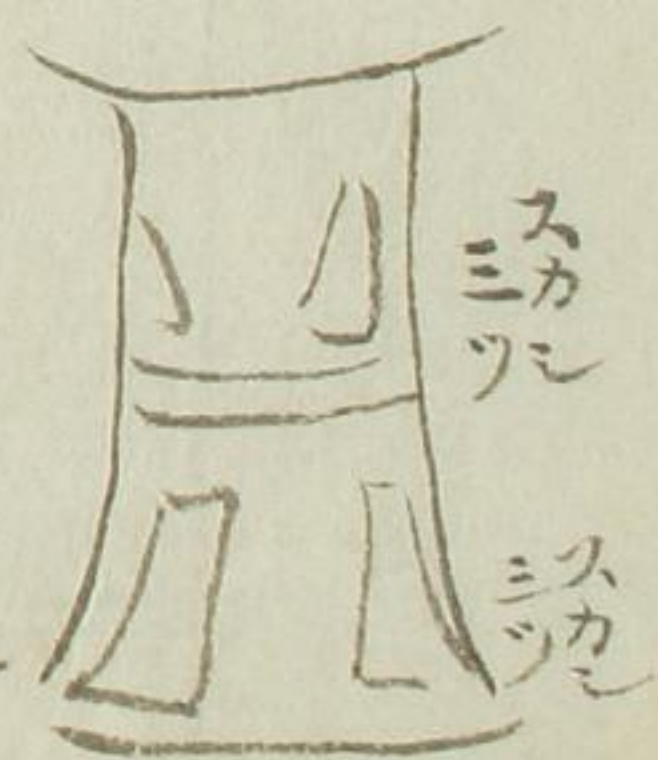


スカミ
スカミ

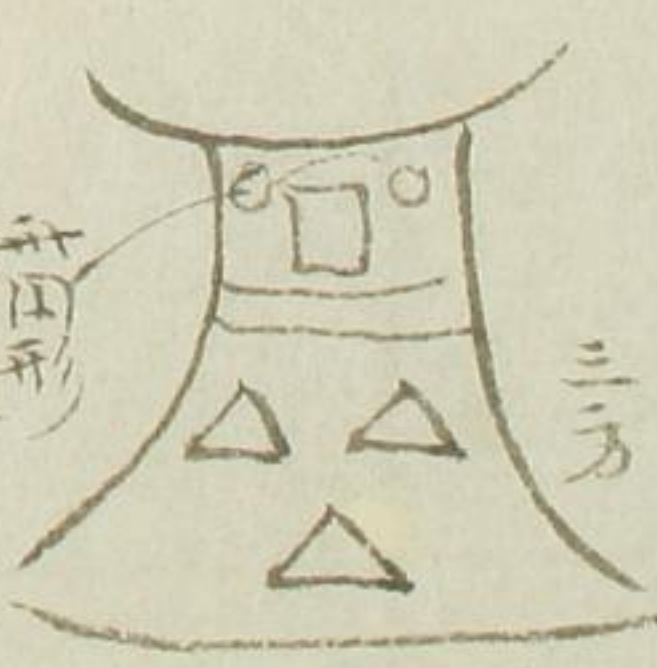


スカミ
スカミ

上
上



スカミ
スカミ



スカミ
スカミ



スカミ
スカミ

牛のくまや

塩の塩の井

遺廟の廟

寺久納屋の元

寺の元

ある山椒の丸木柱と云ふ(一)園八丈ありと云
甲の徳屋の記事牛のくまや(右)知れしやあると云
此々本が堂の記事牛のくまや(右)知れしやあると云
塩水の也あや也塩水あると云(右)知れしやあると云
京村に七也あると云(右)知れしやあると云
元も塩の井の中あると云(右)知れしやあると云
遺廟の廟(右)知れしやあると云
大和五箇の里(右)知れしやあると云
京の寺久納屋の根えと云(右)知れしやあると云
麻子(右)知れしやあると云
寺の元(右)知れしやあると云
今にもあると云(右)知れしやあると云

寺の元

行蔵上人の書

行蔵上人の書
寺の元
京の寺久納屋の根えと云
麻子
寺の元
今にもあると云

鳥の子

鳥の子

年



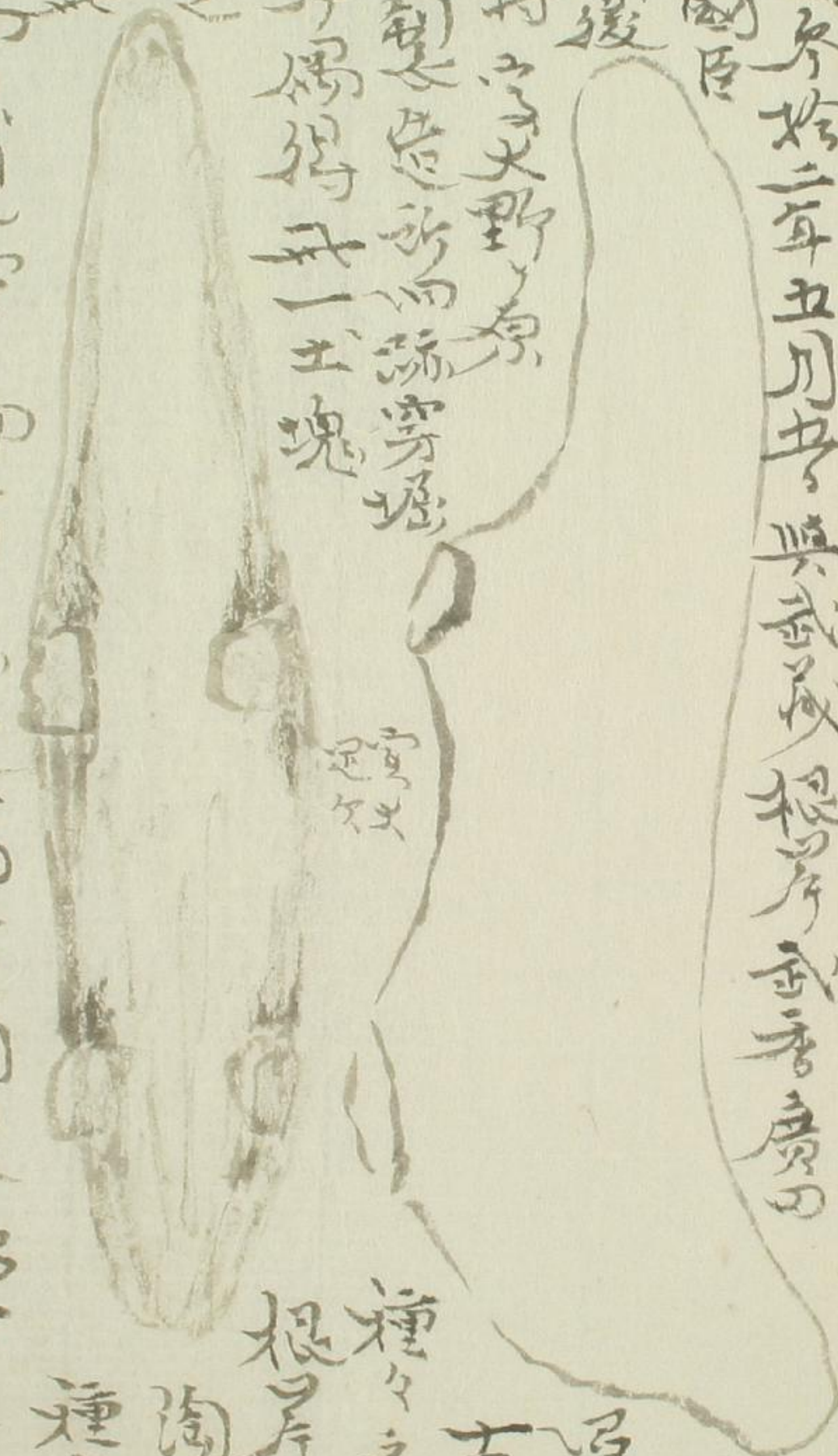
只庵の書簡

只庵の書簡
鳥の子
鳥の子

新編大野原
出土馬

新編大野原の縁日ハ江戸中ニ大略百六縁日ありしに
弘治大野原ニ於テ高野寺ニありし其百十六縁日ハ武家
御前ニありし其百六の縁日ありし其百十六縁日ハ武家
縁日ハ江戸中ニありし其百六の縁日ありし其百十六縁日ハ武家
十の縁日ありし其百六の縁日ありし其百十六縁日ハ武家
九日晦日ありし其百六の縁日ありし其百十六縁日ハ武家
二七不動三八大黒四九心成五十一病子六良少六心成号
の縁日ハ江戸中のものニありし其百六の縁日ありし其百十六縁日ハ武家
の縁日ハ江戸中のものニありし其百六の縁日ありし其百十六縁日ハ武家
己の節力天午の節力
甲の節力天午の節力
乙の節力天午の節力
丙の節力天午の節力
丁の節力天午の節力
戊の節力天午の節力
己の節力天午の節力
庚の節力天午の節力
辛の節力天午の節力
壬の節力天午の節力
癸の節力天午の節力

明治二年五月廿五日武家根子武家原の
西川原
到備後
神村大野原
吾製是造所而跡穿堀
破片馬得其一土塊



種々之陶器
根子白磁
陶器
種々見

右の出土馬ハ高野寺ニありし其百十六縁日ハ武家
遺物トシテ人衆ニ見せし其百十六縁日ハ武家
長壽堂ニありし其百十六縁日ハ武家
高野寺ニありし其百十六縁日ハ武家
高野寺ニありし其百十六縁日ハ武家

昔前國一色町上津村に道祖原と云ふ處ありと
云々道祖原ありて云々

駿河三考觀音堂と云々
駿河の山ありて云々

- 清水寺 東光寺 高柳寺 藤枝寺 村園堂
- 下堂前寺 花沼寺 川波寺 聖心寺 龍泉寺
- 大内寺 平心堂 鉢舟寺 興林寺 所在堂 由井寺
- 岩手山 洞山 麻川寺 清川寺 柳河寺 千本寺
- 三枝橋寺 木瀬川寺 川手山

神咆の事考 神咆の部、古くは神咆の事
神咆の部、古くは神咆の事、神咆の部、古くは神咆の事

文久年向の事、大坂平野、所由、右川、和曲と云々ありて
神咆の部、古くは神咆の事、神咆の部、古くは神咆の事

元禄三年
の所解

と名ぬて申す事ありて... 元禄三年に美... 大坂の... 義士の... 何れ... 思ひ... 解すの文...

一所申すて... 大坂の... 義士の... 何れ... 思ひ... 解すの文...

大坂の... 義士の... 何れ... 思ひ... 解すの文...

遠國奉行

徳川幕府に遠國奉行ありしなり

伏見奉行 長崎奉行 京都奉行 大坂奉行
山田奉行 日光奉行 浦里奉行 堺奉行
駿河奉行 張渡奉行

柳橋廿五郎
近江守

柳橋初馬... 徳川幕府... 柳橋の... 近江守... 柳橋の...

一政書の中
その

嘉永五年正月の五福湯と題せし書の中に
成るのかや 牛込のき

異名考

牛込のき

牛込のき

牛込のき

歌考考

信水 矢房

信水 矢房

小井 城

小井 城

井上 文政

國考

黒川 春村

内庭 慶前

前田 甘茂

蒲生 更平

園中 周知

高名せし人あり

梅父殿に本御名物流行競印等ありと題せし書あり

御書に本御の主人高人竹食河を名題せし書あり

本御の書に二篇の如き本御の書あり

能長者本御名物流行競

篆刻 下石 益而 勤 明

篆書 益而 勤 明 此書一對にしてあり

五福の南

慶長四年正月の五福湯と題せし書あり

利休の書に五福の湯と題せし書あり

お政五年正月の五福湯と題せし書あり

千社札

千社札

千社札

慶長四年正月の五福湯と題せし書あり

延宝六の初春
初

延宝六の初春
繪

延宝六の初春
草

物交ぬき中、延宝六年初春の初春花のいと艶せし
繪本丹の紙別あり、西のよめを城の園ありとの紙の園あり
さこの紙の紙に三つが三つ大黒の徳をのせ持身つたに徳を
左右につちひし若者子信ありの如くの福をうけるに
大黒天をおまじしをありしを
東由乃の繪本ありのあり
元禄三藩八月きり

作者 遠近道平
繪本 豊川吉成
見分 若者信
糸ありと文意改元年初九の南歌子とありし活字の書作

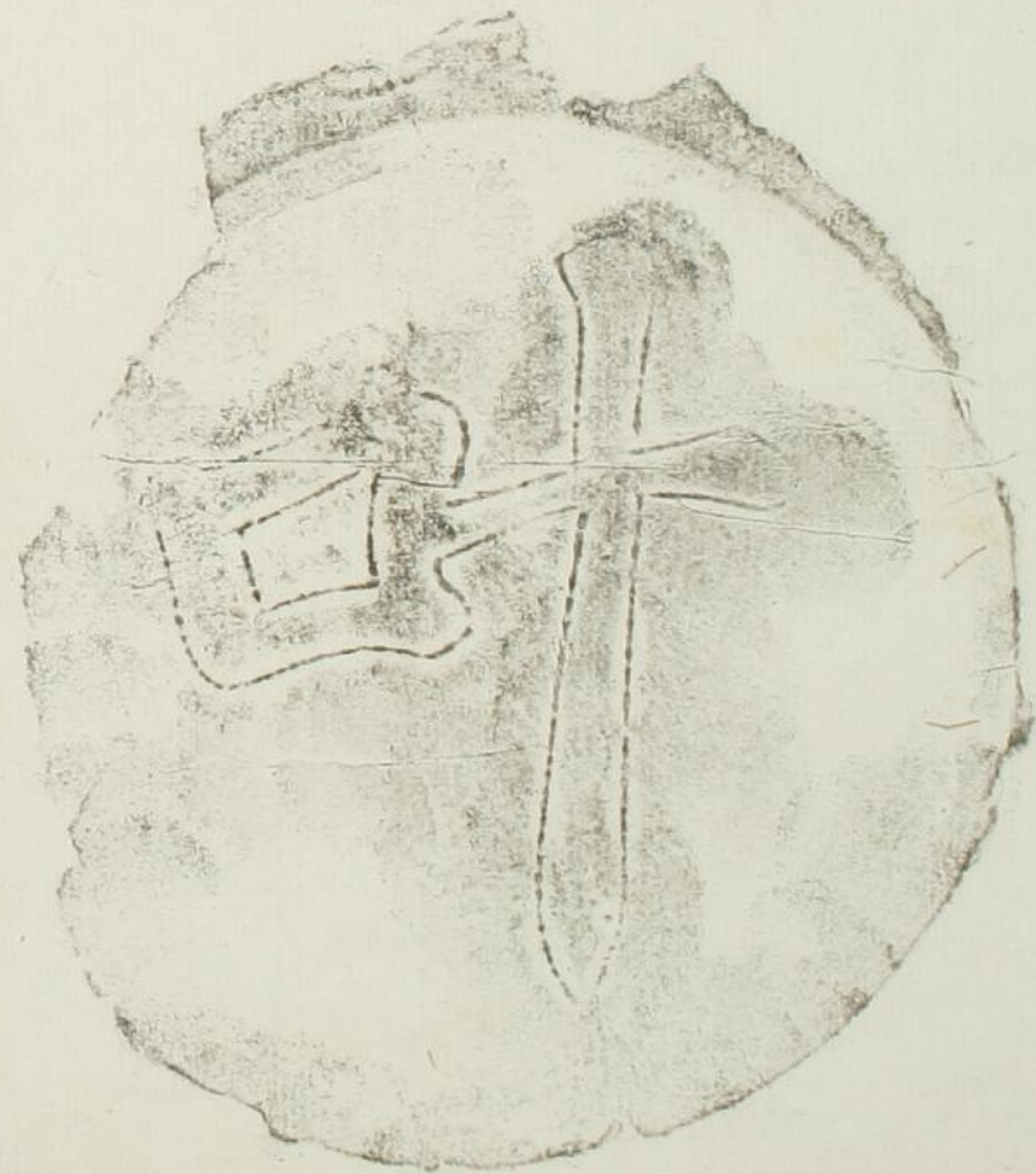
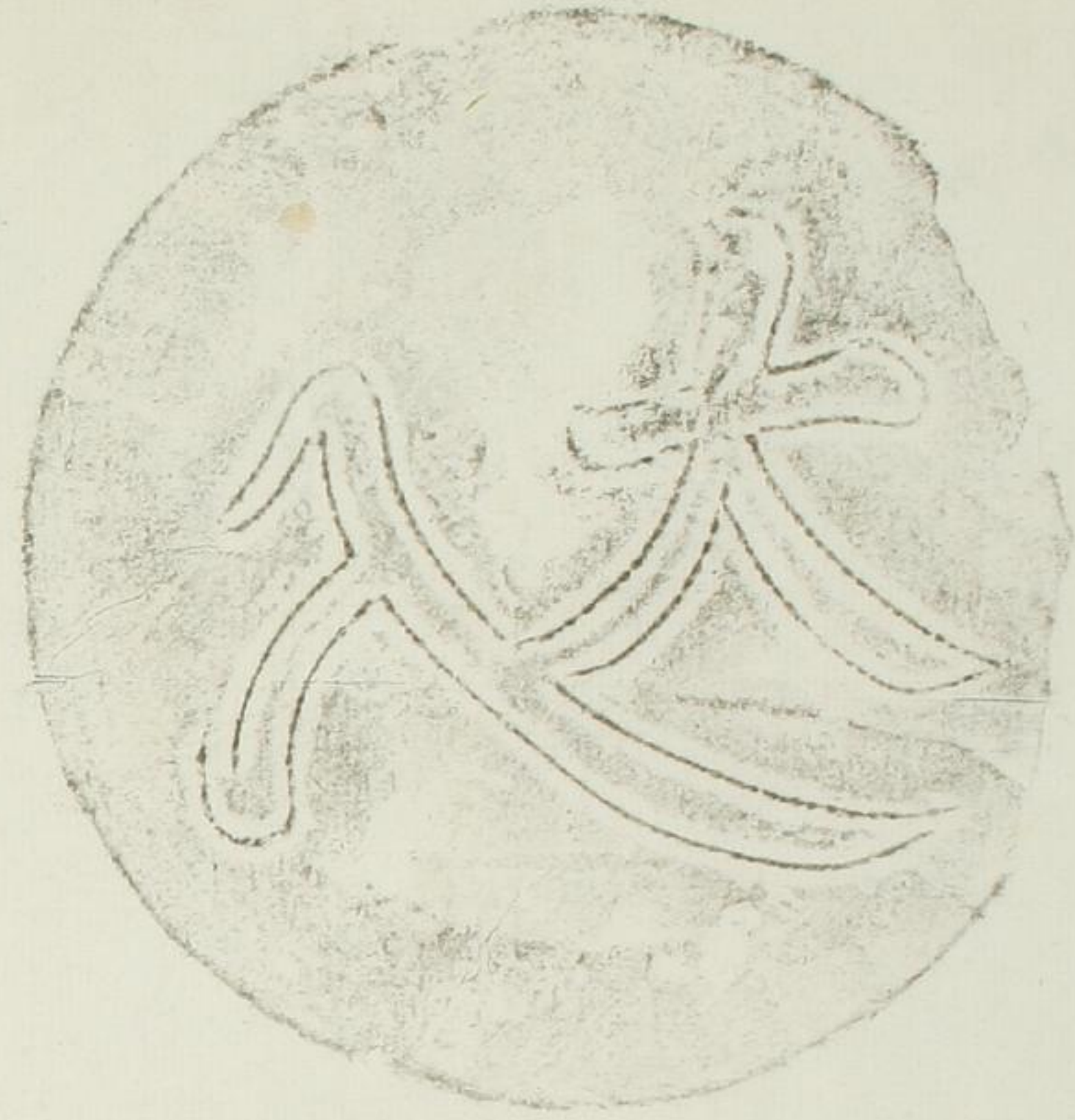
書中の前後の二首を記し此の
九月十三を記す

九月十三を記す 大田章

八月廿二日 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
鏡裏初秋白髮光
寒冷初天 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
中後更見 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
又無霜 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
同じく 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
又さす 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
とありし 初月霜初 明月轉凄涼 空前未滿金波影
八九月の正に記す 凡そつてし 東京河川本抄巻七初とせり

東京河川本抄巻七初とせり

巧る鑄造の
銭の模造者



一枚堂遺書

河の墓

抱一堂の

八重の文七と
他名其量

三打の書
のありて
高某の
村田の
書と題し
七冊出
来しと
同十
四年
三月
中川
徳是
公村
示る

村田の河の墓
根片
西院
中川徳是公
抱一
堂の
遺書
七冊
出
来
し
と
同
十
四
年
三
月
中
川
徳
是
公
村
示
る

錢神志

人力車發明の碑

善光寺の善光寺

青梅の青梅

正し 其量と号あるのありてなるか否やと問ふれば

梅善光寺に同治年間ニ書 仲著 錢神志と題す

古銀隨筆書と見ゆ 碑と題す

善光寺の善光寺とあり 人力車發明の碑あり 碑文の

要旨 明治三年の夏 和泉安部 鈴木源次郎高崎市

三丁の邊にあり 此三年善光寺に 今迄而も 賜ふと云ふ

善光寺善光寺に 原申す 此善光寺 明治五年の古く元祿

の年よりあり 此五丁の長方形の碑あり 此の年号不明なり

善光寺善光寺に 今則ちと云ふに 年中青梅と題す 梅樹

ありしと云ふ 善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに

善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺

善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺

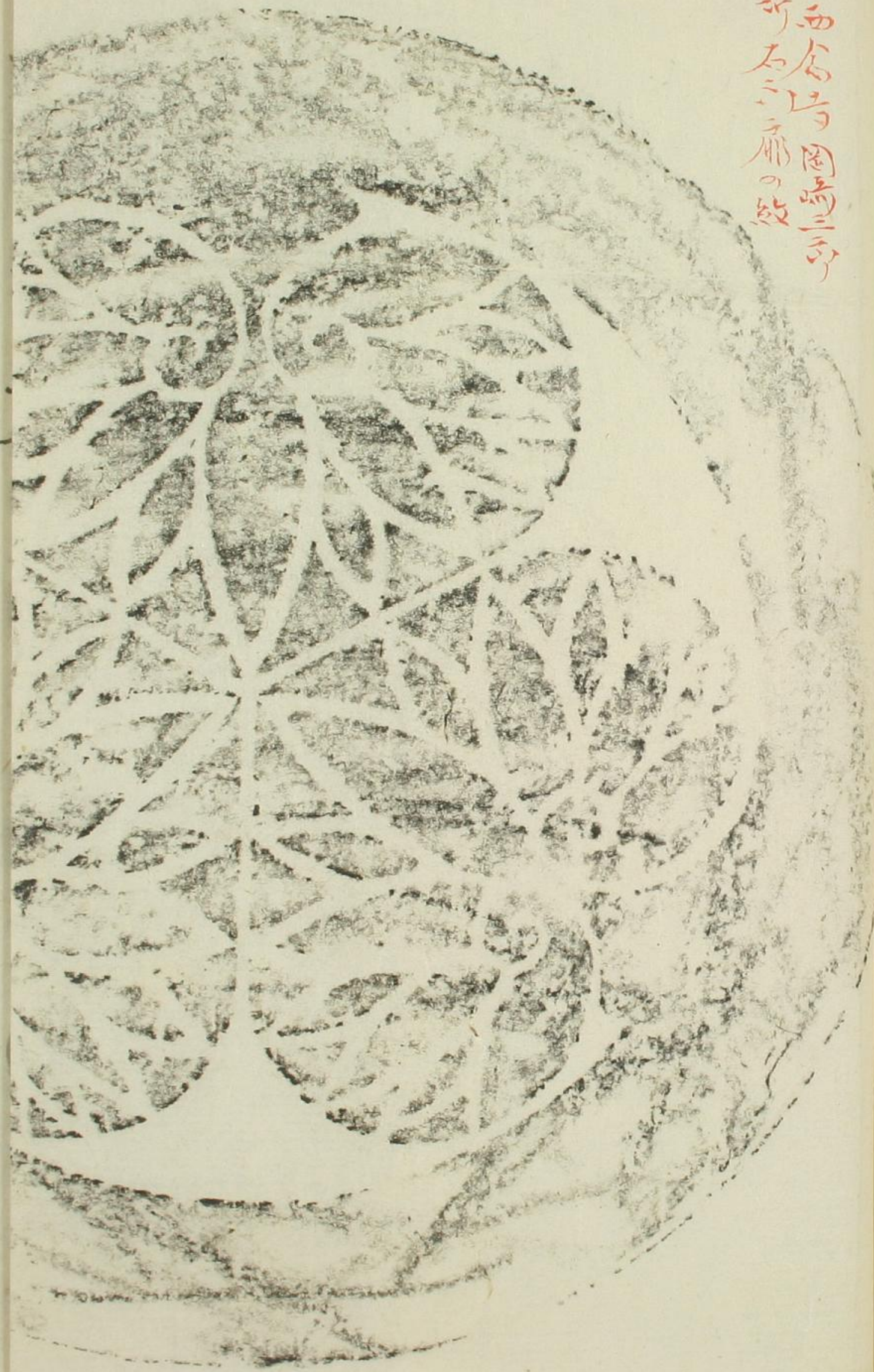
善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺

善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺

善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺

善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺

善光寺の善光寺と云ふに 今則ちと云ふに 善光寺の善光寺



田舎の善光寺の善光寺の善光寺

日露の交渉が信房収容命となり其の出入り際此の事警言
猶ほ二人の義ありし如く叙命品に心を奪はれ給ふに
多くありしは其の情もよくある

和泉三國山本宗寺本古尔これに猶ほ譲渡の義に命たり
母方の前山本堂より給ふに
朱樂管江州人、雖も堂者比考として和歌をよみし人ありて
和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて
和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて

和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて
和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて
和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて
和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて
和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて

和泉三國山本宗寺本古尔これに猶ほ譲渡の義に命たり

朱樂管江州人、雖も堂者比考として和歌をよみし人ありて

和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて

和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて

和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて

和歌の及ぶ首と題して和歌の及ぶ首に和歌をよみし人ありて

元文四年無事改め、東由り、志州の直は信房



下駄 信房

郡の周圍に二重と刻しある燈籠を建て置けり

奉安可進勢州餘麻郎宿野觀音寺觀音也下大宮
山田村中村戸口村道ヶ山村麻向村以此七郷勸進
鑄る至祝万歳々々

元和元年三月十八日勸進之智法師 大鑄師洛東

持度大佛鐘之棟梁 江州大工郡高宮神宮藤
原朝臣重明 伊勢安濃津住辻但馬少将藤原

柳田國方父の山男と云ふ此の深山に住居し信しんば
まゝの年雲々の如く知人の命を深山の奥に
とまひの隠れしと云ひ信しんば 山方のやまも
信んばは教を教のあはれ川のまゝと云ふ
何なるの山にても

木植板の行かぬふありと又越後日向甘の
國王も山男と云ふを言ふもありと云く
なすもさるに糸の改否の中にも山人が
を標のいりしやと云ふ事なすもありと云く
山人かちて来たの加後世来たなつたの
人か山人に擬してその改を切めしと云く
標の山人かちてしりあつたの事なす
梅園寺の著者の筆に云ふ事なす
不測の事と出でか智と云ふ事なす
支行堂標を二百圓入れしと云ふ事なす
しがあつた事なす
ちの事なす
標有梅

葛飾の書物

斗ヨリ〜が記人がなせり〜
葛飾の書物 鐘籠取 取ありと籠籠 欲あり必

戸永二十八

年三月

中野の書物

中野の書物 乙卯の辰書

廿八日

元長慶集卷之三 不忠文后 辰子

妙の辰録 喜多村信 原本 梅屋監眼の原本

明治九年五月 大石好 辰子

大石の書物

大石の書物 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子

藤原の書物

藤原の書物 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子

大石の書物

大石の書物 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子

大石の書物

大石の書物 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子 辰子

大石の書物

新編後篇
とて言葉

萬歳とて言へる意は、
其の萬歳々々々々成と
謂ふ。春が来ると言ふ
意は、春が来ると言ふ
意は、春が来ると言ふ
意は、春が来ると言ふ

新編火防の
進信

後醍醐天皇の御代に
近衛基朝の御代に
霜柱氷の折に言ひ
鳴呼あがきや
ふかあふ七年の月
法皇國元の幅の
ありて言平のひ
元宣所領更のひ
輝談然素老弱の
ひに必都都と
言ひて言平のひ
元宣所領更のひ
輝談然素老弱の
ひに必都都と

諸國八幡社の
創始年代

諸國八幡社の創始年代
ありて言平のひ
元宣所領更のひ
輝談然素老弱の
ひに必都都と

諸曲中
の事

諸曲中の事
ありて言平のひ
元宣所領更のひ
輝談然素老弱の
ひに必都都と

伊福吉部臣徳定
此書の本意録

伊福吉部臣徳定
三年康成冬十月
火葬の文あり康成

新編後篇
の事

新編後篇の事
ありて言平のひ
元宣所領更のひ
輝談然素老弱の
ひに必都都と

福太郎

東京八月九日
清原三郎
三郎
三郎



八月五日

大田五郎

大田五郎